

2019年2月 システム企画研修株式会社



研修をしたいが  
その時間がとりにくい

とお考えではないですか。

昨今の「働き方改革」で残業がままならない状況では、  
なおさらそうございましょう。

▼ ▼ しかし ▼ ▼

能力向上効果だけでなく、**担当業務の改善、部内の改善** にもなる  
としたら、そういう研修なら無理してでもやってみたいと思われませんか？

手法を学ぶ  
弊社の実践付き  
研修は

1日ないし  
2日の  
研修の後に

1～2か月間、  
本番で習得手法を使用した  
実践をしていただく  
ようになっています。

最近、情報システム部門で実施いたしました 二つの研修  
(要件定義研修、問題解決力強化研修) の **実践テーマ** をご紹介します。

現在担当している案件  
の前進だけでなく、

多くの眠っている課題  
が解決されています。

主催側でもびっくりす  
るほどの成果でした。

御社でも同様に眠っている

**長年の課題** があるのではないのでしょうか。



お問合せ

システム企画研修(株)

東京都中央区日本橋小伝馬町 16-2

東事協ビル 2階 電話 03-5695-3130 mind-pc@newspt.co.jp

<http://www.newspt.co.jp/data/kensyu/jissenn/index.html>

A	B	C	D
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわゆるユーザシステムへの対応です。</li> <li>・現在取り組み中の案件対応だけでなく、長年課題でありながら放置されてきたテーマが並んでいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム部門が担当の社内インフラ整備のテーマです。</li> <li>・これも懸案の課題解決が大半です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部内テーマで、担当業務の改善や、部内の改善が入っています。</li> <li>・日頃は先送りされてきた課題が解決ないし前進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他で、社内を対象にした業務の改善です。</li> <li>・こういうのもあるのです。</li> </ul>

「実践付き研修プログラム」には、以下のようなメニューがあります。

これらの研修はいずれも、最近お亡くなりになりました  
 堺屋太一様にご推奨いただきました「価値目標思考のすすめ」がベースになっています。



**「目的は何か」**  
 自明に見えることが「知価社会」では重要だ。  
 実効ある<改善>思考術の「入口」がここにある。  
 堺屋 太一

研修の詳細は、当該の研修案内をご参照ください。ご検討いただければ幸甚でございます。

ご要望がございましたら、いつでもご説明に伺わせていただきます。

主要な実践付き研修プログラム		
研修名	対象者	研修内容
<b>目的思考強化研修</b> (1日+実践)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職種不問、年齢不問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目的・ねらい」の重要性、「目的・ねらい」の設定手法を学びます。</li> </ul>
<b>問題解決力強化研修</b> (2日+実践、他)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職種不問、年齢不問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目的・ねらい」の設定手法、問題点連関図手法等を学びます。</li> <li>・ 教材として「問題解決バイブル」が提供されます。</li> </ul>
<b>企画・提案力強化研修</b> (2日+実践)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユーザ対応業務のご担当</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目的・ねらい」の設定手法、企画書の作成手法を学びます。</li> <li>・ 教材として「企画・提案書事例集」が提供されます。</li> </ul>
<b>要件定義研修</b> (2日+実践)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開発・改修を担当している「非ベテラン社員」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ハイブリッド時代の要件定義手法」を学びます。</li> <li>・ 教材として「要件定義マニュアル」が提供されます。</li> </ul>

## 弊社研修実践テーマ（例）

**A. ユーザシステムの改善**

1. 生産計画自動設定システム補強
2. **I o Tによる製品状態管理システムの補強**
3. 販売システム「ロール」設定の現場対応化
4. 配送依頼の電子化（マイナシステム）
5. クレーム対応業務のシステム改善（数十年ぶり）
6. 部材検収処理のレスポンス改善
7. （自社製品の）納期回答システムの精度向上
8. 輸入システムの改善
9. **営業部門CLM導入**
10. 実験材料購入プロセスの見直し
11. 更新予定の基幹システム運用改善
12. Aシステムのパフォーマンス改善
13. コールセンタシステムリプレース
14. 名刺管理システムの導入

**B. 社内インフラの改善**

1. セキュリティインシデント対応フローの強化
2. **ヘルプデスクのチャットボット導入**
3. **問い合わせ対応のAI化**
4. 業務アプリ利用変更管理の改善
5. コンプライアンス e Learning の受講改善
6. ペーパーレスの推進

**C. 部内テーマ**

1. **利用ソフトウェアの契約管理一元化**
2. データ連携作業の省力化
3. 本番移行作業の定型化・自動化
4. **システムインフラ管理の統合**
5. 案件フォルダの申請運用改善
6. 部内月次会議の改善
7. 社内世界各地の IT portal site の統一
8. クラウド利用の改善

**D. その他**

1. 防災訓練管理業務の改善
2. IS満足度調査実施の改善